



# 高崎市ハザードマップ

～災害から命を守るためのガイドブック～

## 高崎 地域版

平成 26 年 8 月作成

## 災害情報の入手方法

### 高崎市からの情報提供

#### ☎ 災害情報ほっとテレホン

**027-321-5000** (災害時のみ)

市は災害等が発生、または発生するおそれがある場合に、027-321-5000 を開設し、災害等の緊急情報の提供を行います。高齢者等の情報弱者にも使いやすい一般電話を使用して、災害等の緊急情報を必要なときに容易に入手できるように備えます。

#### 提供する主な情報

- 災害情報  
地震、風水害、台風、避難関連
- 大規模事故などの情報  
水道等のライフライン情報、大気・水質関連の事故などの情報
- 国民保護事案  
ゲリラや特殊部隊による攻撃、弾道ミサイル攻撃など

#### ✉ 安心ほっとメール

たかさき「安心ほっとメール」は、皆さんの携帯電話やパソコンに防犯・防災情報などの緊急情報や、観光・文化情報などの地域情報をお伝えするメール配信サービスです。登録は無料です。  
(パケット通信料は登録者負担となります)。

#### 登録方法

##### ■ 携帯電話から登録

takasaki@entry.mail-dpt.jp

上記アドレスに空メールを送ってください。QR コードを読み取れば、アドレスの入力は必要ありません。



QRコード

##### ■ パソコンから登録

<http://takasaki.mail-dpt.jp/>

#### フェイスブック フェイスブック ツイッター ツイッター Facebook・Twitter も運用中です！

主に防災・防犯・火災・見守り情報等を発信しています。

Facebook  
高崎市\_防災情報

Twitter  
@takasaki\_bousai

QRコード



QRコード



### テレビ・ラジオで調べる

#### 📻 ラジオ

ラジオ高崎	76.2MHz
NHK-FM	81.6MHz
FM 群馬	86.3MHz
NHK 第一	594 kHz
道路情報	1620kHz

#### 📺 テレビの d ボタン

データ放送に対応しているテレビでは、dボタンを押すことで、雨の情報や河川の情報を確認できます。

#### + 病院案内 急病人がでたとき、病状にあった病院や診療所を教えてください。

- 高崎市等広域消防局 027-325-0011
- 多野藤岡広域消防本部 0274-23-6699

#### 救急医療機関、休日当番医、休日夜間急患センター

群馬県統合型医療情報システム

##### ■ パソコンから

<https://www.med.pref.gunma.jp>



QRコード



群馬県には自然災害に対する『安全神話』があります。

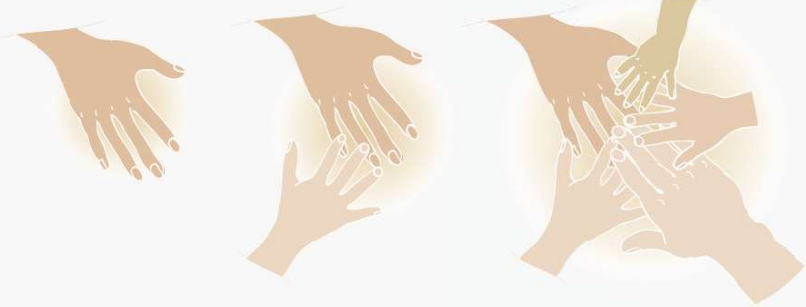
高崎市でも死者・行方不明者が発生するような災害は30年以上にわたって発生していません。しかし、自然災害は数十年、数百年、時には東日本大震災のように千年に1度というタイムスケールの中で発生します。また、近年では集中豪雨の発生が増加し、洪水や土砂災害による危険も高まっています。

まさかの事態がわが身に降りかかった場合に、人はなかなか適切に行動することはできません。まさかの事態に備えるために、改めて地域の皆さんと災害時の対応について相談し、また、お住まいの地域にひそむ危険性を把握し、いつ身に降りかかるかわからない災害に対応するためこの冊子を活用していただきたいと思えます。



高崎市長 富岡 賢治

## 防災の心構え ～率先して実践・避難～



### 自分の命は自分で守る

災害による犠牲者を無くすためには、市民一人ひとりが、「いざというとき、最終的に自分の身を守るのは自分自身」という原点に立ち返ることが重要です。「自分は大丈夫」と思いこんだり、誰かに頼りきりになり、災害に備える姿勢を失ってはけません。

### つぎに、家族

自分の命を守ることができれば、家族を助けることができま  
す。また、家族間でいざというときの対応を確認し、ふだんか  
ら備えていることが、家族の命を守ることにつながります。

### そして、地域へ

「率先して実践・避難」し、自分の命、家族の命を主体的に  
守ることを地域住民同士が共有できれば、たとえ個人での対応  
が困難な場合であっても、それを可能にする大きなチカラが生ま  
れます。

地域の弱点  
を知る！

そもそも…、  
高崎市にはどのような災害があるの？

### 洪水災害や土砂災害では…、

- ・どのような危険があるの？
- ・いつ逃げたらいいの？
- ・どういった情報があるの？

### 地震が心配です…、

- ・地震にはどう備えればよい？
- ・揺れた時は、どうすれば？
- ・高崎市の地震はどの程度？

### 冬の大雪も心配です…、

- ・大雪時に注意することは？

### 洪水・土砂災害時には…、

- ・自宅に滞在することは可能？
- ・どこに避難すればよい？

- ・異常気象とよく聞きますが、どのよ  
うな危険があるの？
- ・少しでも浸水の被害を減らすには？
- ・竜巻や突風から身を守るには？

地域の災害の特徴を知り、  
災害ごとに命を守る対応を  
確認しましょう。



(監修)  
群馬大学理工学研究院 教授  
片田 敏孝

気づきマップ

3～4ページ

洪水災害

洪水災害 避難の心得

5～6ページ

洪水災害を知る

7ページ

土砂災害

土砂災害を知る

8ページ

土砂災害 避難の心得

9～10ページ

地震

地震の心得

11～12ページ

地震を知る

13～14ページ

大雪

大雪時の注意点

15～16ページ

大雪による被害

17～18ページ

避難検討マップ  
(地域を12分割)

19～42ページ

防災のコラム

異常気象で激しさを増す災害

43～44ページ

異常気象に伴う危険

45ページ

その他の防災情報

情報の入手方法

46ページ

避難所の一覧

47～48ページ

家族との連絡方法

49ページ

非常持ち出し品・備蓄品リスト

50ページ

あなたの避難先

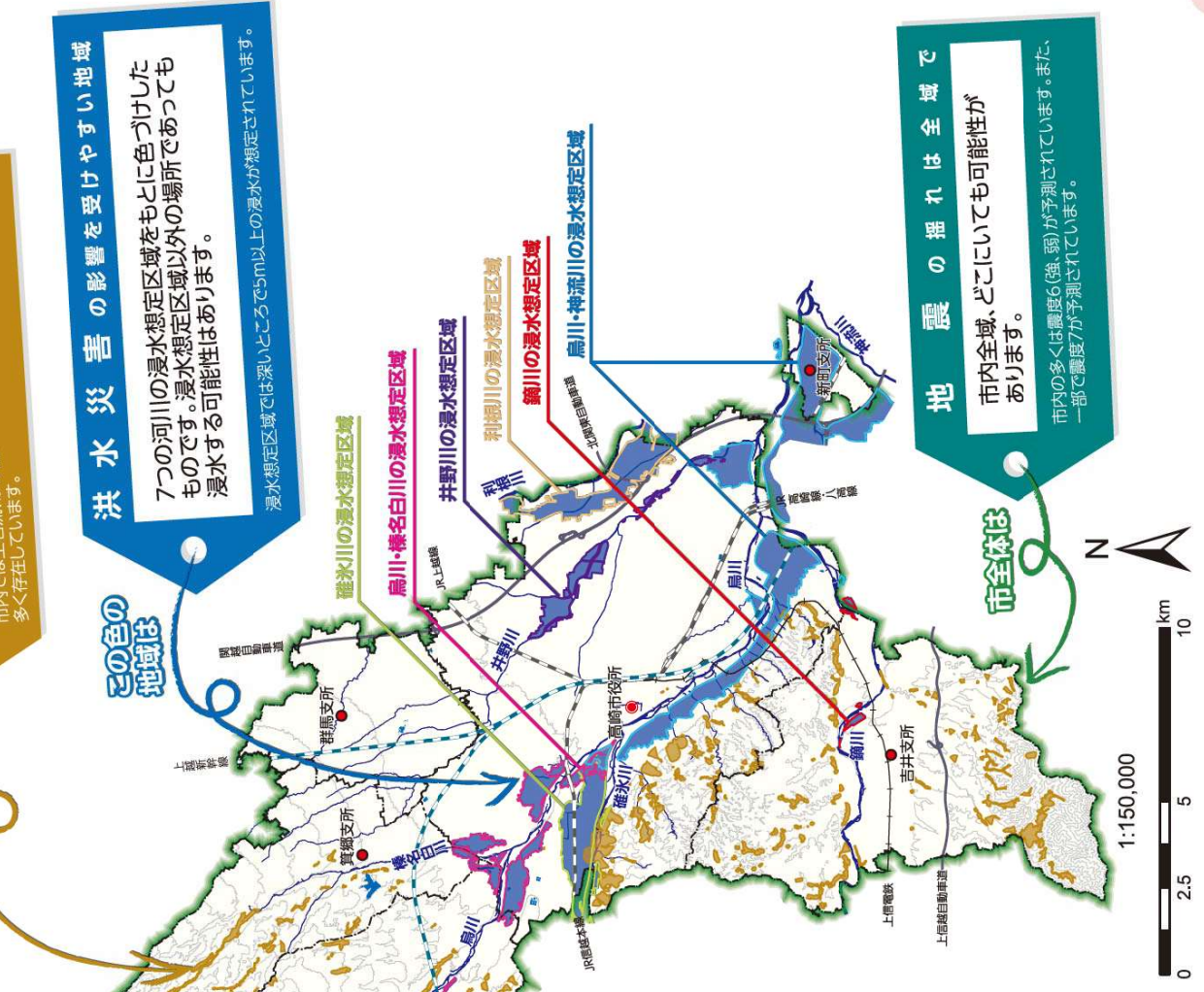
裏表紙



このマップは高崎市にどのような災害の危険性があるか、7つの河川それぞれで洪水は氾濫した場合の計算結果や、土砂災害警戒区域、群馬県の地震調査結果をもとに、その特徴を総括的に示したものです。

あなたのお住まいや職場付近ではどのような特徴の災害が生じうるのか、その概略をこのマップで把握しておきましょう。

どのような災害が身近で起きているのか、まずは知っておきましょう。



### 浸水想定区域の前提条件

浸水想定区域は、作成時点での各河川の整備状況で、以下のような条件によって、河川の指定区間においてはん濫した場合に想定される浸水の状況を示したものです。

河川	前提条件
烏川・神流川・鍋川・碓氷川(国管理)	烏川等の上流域に3日間の総雨量377.5mm (概ね100年に1回起こりうる大雨)
烏川(県管理)	烏川流域に2日間の総雨量478.9mm (概ね100年に1回起こりうる大雨)
榛名白川(県管理)	榛名白川流域に1日間の総雨量338.7mm (カスリン台風規模の大雨)
碓氷川(県管理)	碓氷川流域に2日間の総雨量354.0mm (概ね100年に1回起こりうる大雨)
井野川(県管理)	井野川流域に1日間の総雨量232.0mm (概ね50年に1回起こりうる大雨)
利根川(県管理)	利根川流域に3日間の総雨量318.0mm (カスリン台風規模の大雨)
鍋川(県管理)	鍋川流域に2日間の総雨量458.3mm (平成19年台風9号と同程度の大雨)

**土砂災害の影響を受けやすい地域**  
土砂災害警戒区域をもとに色づけしたものです。示された区域以外であっても土砂災害が発生する可能性があります。

市内では土石流、かけ崩れ、地すべりの危険性が高い地域が数多く存在しています。

**この色の地域は**  
**洪水災害の影響を受けやすい地域**  
7つの河川の浸水想定区域をもとに色づけしたものです。浸水想定区域以外の場所であっても浸水する可能性があります。

浸水想定区域では深いところで5m以上の浸水が想定されています。

**地震の揺れは全域で**  
市内全域、どこにいても可能性が  
あります。

市内の多くは震度6(強、弱)が予測されています。また、一部で震度7が予測されています。

**市全体は**



# 洪水災害から命を守るために

早い段階で安全な場所へ

## 浸水前の早い段階に安全な場所へ

浸水の中を避難するのはとても危険です。浸水前の避難にこの情報が活用できるか確認し、避難のきっかけをつかみましょう。

**避難情報 1**  
この段階で避難する人  
特に避難行動に時間を要する方  
(避難行動要支援者など)

**避難情報 2**  
この段階で避難する人  
すべての住民の方

**避難情報 3**  
この段階で避難する人  
すべての住民の方  
(避難が完了していない方)

## 浸水後には浸水より高い場所へ

逃げ遅れたら  
その場そのときで命を守れる場所へ

雨が降り始める

人的被害の発生する可能性が高まった状況

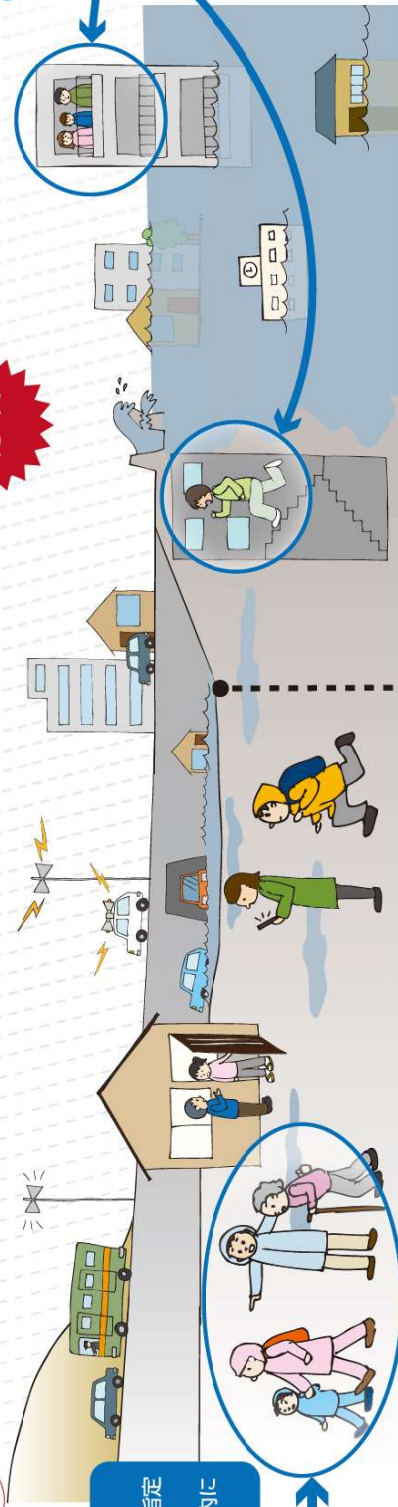
人的被害の発生する可能性が明らかに高まった状況

人的被害の発生する可能性が非常に高いと判断された状況

発災後

どこへ  
例えば  
◎歩いていける最寄りの指定避難所  
◎親戚、友人宅など、市内に限らずより安全な場所

どこへ  
例えば  
◎高い建物や高台  
◎自宅の高いところ  
◎指定避難所に限らず、駆け込めるところ



**気象情報に注意**

大雨により災害が発生するおそれがある場合、警報や注意報などの防災気象情報が発表されます。

**大雨注意報・洪水注意報**  
災害が発生するおそれがあると予想されたとときに発表されます。

**大雨警報・洪水警報**  
重大な災害が起こるおそれのあるときに発表されます。

**大雨特別警報**  
重大な災害が起こる可能性が非常に高まっている場合に発表されます。

台風が接近している場合は、暴風や大雨をもたらします。勢力が強く、大きい台風が迫っている場合は、台風情報にも注意しましょう。



資料：気象庁

台風の強さ	最大風速
強い	33m/秒～44m/秒
非常に強い	44m/秒～54m/秒
猛烈な	54m/秒～

台風の大きさ	風速	半径
大型	500km	800km 未満
超大型	800km 以上	800km 以上

**注意**  
洪水時には普段では気づかない危険が潜んでいます。洪水時の危険箇所を 7 ページで確認しましょう。

**水位情報に注意**  
大雨や洪水により河川がはん濫の目安として基準水位が設定されています。河川はん濫が発生するおそれがある場合、水位情報が発表されます。

- はん濫危険水位
- 避難判断水位
- はん濫注意水位
- 水防団待機水位

川の防災情報  
<http://www.river.go.jp/>

群馬県水位雨量情報  
<http://www.uryou-gunma.jp/>

**注意**  
ゲリラ豪雨と呼ばれる局地的な大雨が増えています。増水した河川や水路は見に行かないなど屋外での活動の時には注意してください。また、川の上流で降った大雨により急に増水し、大雨が降っていない下流で事故が発生することもあります。

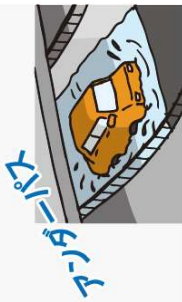




# 普段では気づかない危険があります

## ■浸水の中を避難するのはとても危険です

高架下のアンダーパスなど、周囲より低く冠水しやすい道路の通行は避けましょう。



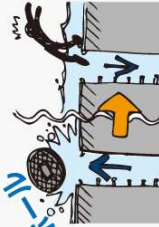
アンダーパス

浸水が浅くても流れが速い場合は歩くのは危険です。



速い流れ

水が濁って、足元が見にくくなります。もしフタが外れ、溝などに転落して危険です。



マンホール蓋

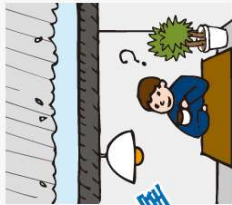
## ■自宅や建物の中にも危険な場所があります

地下には水が一気に流れ込んできます。



下階

地下室では、浸水の危険性が高いことがあります。



地下室

数十センチの浸水でも水圧でドアが開かなくなります。



注意

# 自宅にとどまる際の注意点

■自宅にとどまるのが困難な地域も 次のような地域は、自宅にとどまるのが困難な地域です



浸水が2階等の居住階まで達する木造家屋で河川沿いに家がある

■自宅の中の少しでも安全な場所に



同じ建物の中でも上層階など、浸水から安全に身を守る場所へ避難しましょう。

浸水よりも高く

注意

## ■自宅にとどまる場合には準備と覚悟を

浸水した場合には、水道や電気、ガス、トイレ、エレベーターなどが使えなくなる可能性があります。自宅にとどまる場合には、飲料水や食料などの準備と、不便を強いられることへの覚悟が必要です。

また、浸水や孤立の長期化でつづきのようなことも考えられます。

- 停電により情報の入手が困難になったり、エレベーターが止まる
- 衛生環境が悪化する、病人が出た場合には対応が難しい
- 定期的な診療を受けている人は診療を受けられない



※3~7日分

50ページの「非常持ち出し品・備蓄リスト」を見て準備しておきましょう

# 土砂災害の種類と前ぶれ（予兆現象）

## がけ崩れ

地面にしみ込んだ水が斜面をゆるめ、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることを「がけ崩れ（急傾斜地崩壊）」といいます。



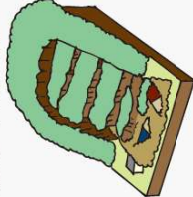
がけ崩れの危険 が見える が見えればから小石が ばらばら落ちてくる



がけから 水が湧き出ている

## 地すべり

地下水などの影響により、地面が広い範囲にわたってゆっくりとすべり落ちるのが「地すべり」です。



地すべりの危険 斜面から水が 噴き出す



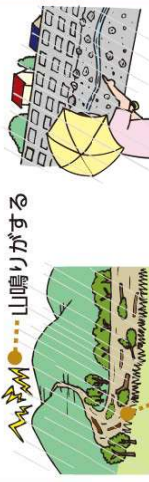
地面にひび割れができる

## 土石流

山腹や川底の石や土砂が、長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されるものを「土石流」といいます。



土石流の危険 山鳴りがする



急に川の流れが濁り、 流木が混ざっている

雨が降り続けているのに川の水位が下がる

# 土砂災害警戒区域とは？

土砂災害のおそれのある区域を「土砂災害警戒区域」と呼びます。「土砂災害警戒区域」には、「土砂災害警戒区域（イエローゾーン）」と「土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）」の二種類があります。

## 土砂災害警戒区域

土砂災害が発生した場合に、住民等の生命または身体に危険が生じるおそれがある区域です。

## 土砂災害特別警戒区域

土砂災害が発生した場合に、建築物に損傷が生じ住民等の生命または身体に著しい危害が生じるおそれがある区域です。特定の開発行為に対する許可制や建築物の構造規制等が行われます。



# 土砂災害から命を守るために

早い段階で安全な場所へ **原則**

## 雨や予兆現象に注意し、早めの避難

土砂災害は、避難情報を発令することが非常に難しい現象です。情報が無くても自主的に避難するきっかけを掴みましょう。

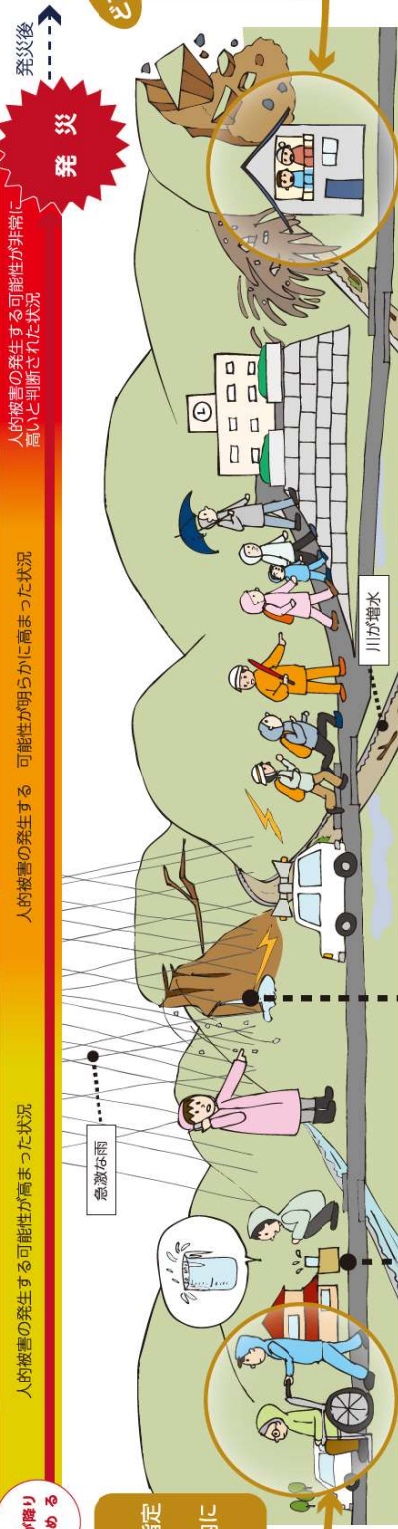
**避難情報 1**  
この段階で避難する人  
**避難準備情報**  
特に避難行動に時間を要する方  
(避難行動要支援者など)

**避難情報 2**  
この段階で避難する人  
すべての住民の方

**避難情報 3**  
この段階で避難する人  
すべての住民の方  
(避難が完了してはならない)

**どこへ?**  
例えば  
◎歩いていける最奇りの指定避難所  
◎親戚、友人宅など、市内に限らずより安全な場所

**どこへ?**  
例えば  
◎高く丈夫な建物  
◎自宅の高いところで斜面から離れた場所  
◎指定避難所に限らず、駆け込めるところ



### ! 雨に注意

次のような雨が降ったら、土砂災害の危険性が高まっています。

- 1 時間に 20mm 以上の雨**  
車のワイパーを動かしても前が見えにくいほどの強い雨  
**連続雨量で 100mm 以上の雨**  
弱い雨でも長時間降り続けると、土砂災害の危険性が高まる
- 降水量に注意する習慣をつけよう**  
雨が降り始めたらカップを平らな場所に置き、溜まった水の高さ (1cm で 10mm 相当の雨) で雨量が確認できます。  
1 時間 で 2cm → [1 時間の雨量 20mm]  
降り始めから 10cm → [連続雨量 100mm]

### ! 予兆現象に注意

土砂災害が発生する前には、予兆現象が確認されることがあります。予兆現象を見つけたら、ただちに避難を開始しましょう。

**予兆現象は 8 ページで確認しましょう**

### ! 気象情報に注意

土砂災害の危険性が高まったときに発表される情報

- 大雨注意報 (土砂災害)**  
災害が発生するおそれがあると予想されたときに発表されます。
- 大雨警報 (土砂災害)**  
重大な災害が起こるおそれのあるときに発表されます。
- 土砂災害警戒情報**  
地域の雨量などを考慮して、土砂災害発生の危険性が高まった地域に対して発表されます。
- 大雨特別警報 (土砂災害)**  
重大な災害が起こる可能性が非常に高まっている場合に発表されます。

### ◎自主避難のルールを決めておこう

1. 注意する予兆現象の確認  
自主防災会などで情報を共有する  
方法の確認や訓練を実施しておくことが重要です。  
例えば、... 場所を地域で取りまとめる  
周囲の異変を確認する
2. 地域で情報の共有方法の確認  
「あつたよ!」「さるさる危険だよ!」「みんな逃げよう!」  
周囲の異変をどのよう地域で共有するのかを決める
3. 避難訓練の実施  
周囲の異変の確認や共有ルールに基づき訓練する



## 原則

### 事前の耐震化や家具の固定が第一

1995年の阪神・淡路大震災では犠牲者の8割以上が建物の倒壊によるものでした。地震の被害は一瞬です。起こる前の備えが第一です。特に昭和56年以前に建てられた木造住宅（旧耐震基準）の場合には、必要に応じて補強しましょう。家の中の家具や窓にも対策をしましょう。

**事前の備えは、12ページで確認しましょう**

揺れを感じたら、まず！

### 身の安全を確保

屋内にいる場合と屋外にいる場合、がけ崩れの場合など、その場に応じて、とにかく身の安全を確保しましょう。



**クラッときたら**

すぐに身を守る行動をとりましょう。

**揺れた時の対応は、13ページで確認しましょう**

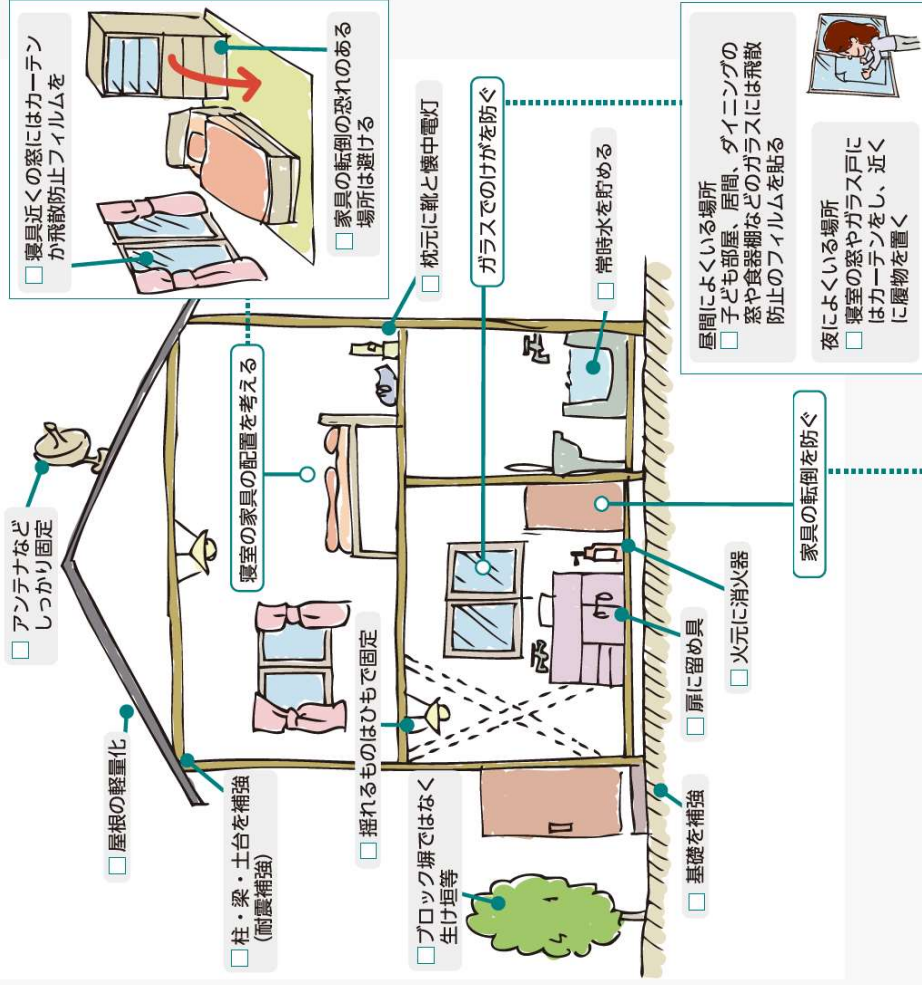
### 自宅で生活できそうな時は、避難は必要ありません

つぎのようなときは避難しましょう

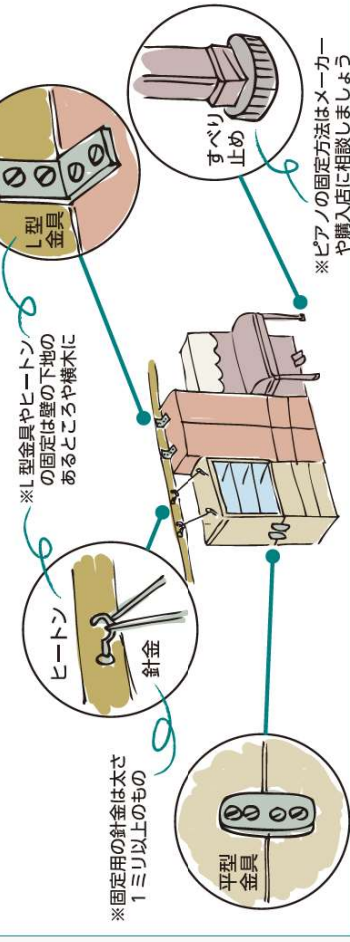
- 余震で、家屋が倒壊する危険があるとき
- 周辺で火災が発生しているとき
- 余震で、がけ崩れの危険があるとき

# 揺れから身を守る事前の備え

揺れから身を守るための対策をチェックしましょう。



家具を固定する



※L型金具やヒートンの固定は壁の下地のあるところや横木に

※固定用の釘は太さ1ミリ以上のもの

※ピアノの固定方法はメーカーや購入店に相談しましょう



# 揺れを感じたとき、地震後の対応

## 建物内にいるとき



### 1. 身の安全を確保

揺れを感じたら、テーブルや机などの下に身を隠し、頭を保護しましょう。

### 2. 火の始末をする

揺れがおさまったら、火の元の確認をしましょう。

### 3. 出口を確保

ドアを開け、避難経路を確保しましょう。

### 4. 避難するときは

家屋の倒壊、火事、がけ崩れなどのおそれがあるときは避難しましょう。

- ガスの元栓を閉める
- プレーカーを落とす
- 非常持ち出し袋を持つ

## 屋外にいるとき

### 1. 落下物に注意

窓ガラスの破片や屋根瓦などが落ちてきたり、自動販売機や塀が倒れることもあります。

### 2. 公園・空き地・丈夫な建物へ

落下物の危険がない公園や空き地、丈夫な建物へ避難し、身の安全を確保しましょう。

### 3. 危険な場所には近づかない

がけ崩れの危険があるので、山やがけには近づかないようにしましょう。また、倒れた電柱や切れた電線には近づかないようにしましょう。



## 火山が噴火したときの影響は？

群馬県には、浅間山、榛名山、赤城山、草津白根山、日光白根山の5つの火山があります。浅間山と榛名山は、噴火が起こった場合、大きな被害を及ぼすといわれています。

### 浅間山の噴火の特徴

浅間山は、最近20～30年間は比較的静かな状態が続いています。しかし、明治時代から昭和30年代にかけては、噴火をひんばんに起こしていました。浅間山が噴火した場合、火口から4km以内では、50cm程度までの大きな噴石（岩塊）が飛んでくる可能性があります。明治時代以降の噴火で犠牲になった方々は、全て火口から4km以内にいた登山者で、噴石（岩塊）の直撃を受けて亡くなっています。

### 降灰（火山灰）についての注意

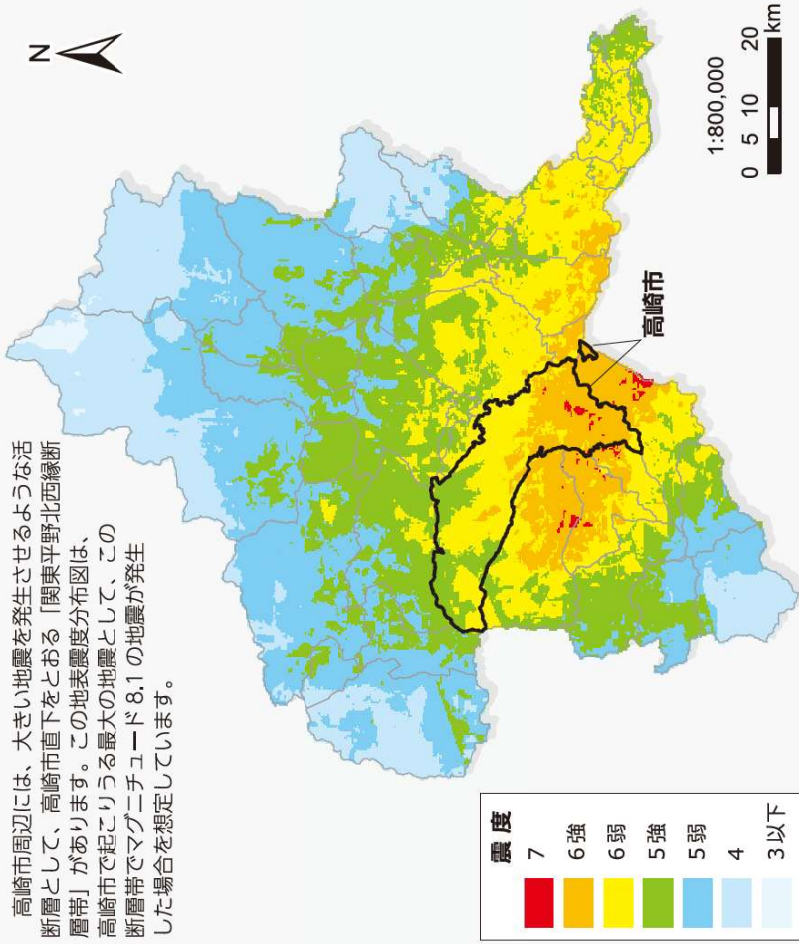
- ❶ 火山灰は風で遠くまで運ばれます。また、風向きによって様々な方向に降ります。
- ❷ なるべく家から出ないようにし、やむを得ず外出する場合は、マスクやゴーグルなどのでや目を守りましょう。大きな健康被害を引き起こすことは少ないですが、ぜんそくや気管支炎などの症状をお持ちの方は、注意が必要です。
- ❸ 窓やドアをしっかりと閉めましょう。コンピューターや精密機器の故障の原因になります。
- ❹ 火山灰は、とがった結晶質の構造をしているため、ワイパー等でこすると車のフロントガラスに傷がつく恐れがあります。多量の水で洗い流すようにしましょう。
- ❺ 道路が滑りやすくなり、ブレーキが利きにくくなります。また、タイヤで巻き上げられた火山灰などで視界が悪くなります。なるべく車の運転はしないようにしましょう。

引用元：2009年度版 浅間山火山防災マップ

# 群馬県は地震が少ない？

地震が少ないといわれている群馬県内にも、約10の活断層が確認されています。平成24年に群馬県が行った「地震被害想定調査」によると、多くの人が寝ている冬の早朝に、高崎、藤岡市などを通る活断層（関東平野北西縁断層帯主部）による地震が起こった場合、死傷者は20,200人にのぼる試算が出ています。今後30年以内の発生確率は極めて低いとされていますが、大地震はどこでも起こりうると考えて備えてください。

## 関東平野北西縁断層帯主部による地震（M8.1）における地表震度分布図



## 緊急地震速報は唯一の事前情報

緊急地震速報を見聞きしてから強い揺れが来るまでの時間はごくわずかです。この短い間に、落ちてるものや倒れてくるものを避けあわてずに身の安全を確保しましょう。速報が間に合わない場合もありますので、地震の揺れを感じたときは身を守る行動を心がけましょう。



# 大雪時の外出は控えましょう

**気象情報に注意し、大雪の時は不要不急の外出を控えましょう**

- ・平野部では、豪雪地帯と比較して少ない積雪でも混乱が起こりやすいので、気象庁から発表される気象情報に注意しましょう。
- ・交通機関の混乱、積雪や道路凍結による事故、歩行中の転倒などの危険があるため、雪道の歩行や運転に自信のない方は外出を控えるようにしましょう。



## どうしても外出するときは

### 時間に余裕をもって

交通機関の混乱が予想されます。時間に余裕をもって行動しましょう。

### 滑りにくい靴で

雪用長靴やスパイクの付いた靴などの滑りにくい靴を履きましょう。または滑り防止器具を靴に装着しましょう。

### 必ず冬用タイヤを装着

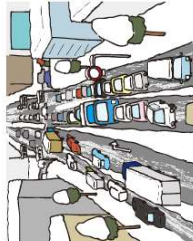
自動車は、冬用タイヤ(スタッドレス、チェーン)を必ず装着しましょう。

### いつも以上に安全運転

スピードをおとし、普段の倍以上車間距離をとりましょう。急ブレーキを避け、余裕を持って停車しましょう。急発進、急加速、急なハンドル操作は避けましょう。



滑り防止器具



# 大雪時の外出は危険

## 路面凍結に注意

冬道では、雪や氷がなくても日陰や橋の上、トンネルの前後が凍結していることがよくあります。また、特に夜間や早朝の気温が低いときは路面が黒く見えても凍結している(ブラックアイスバーン)ことがありますので、十分注意してください。



## 雪で車の身動きが取れなくなったら

除雪の行われていない状態で車の暖気運転を行うのは危険です。必ずマフラー(排気筒)周辺の除雪を行ったあとエンジンを始動してください。



## 切れた電線には手を触れない

樹木倒壊等により、切れて垂れ下がっている電線には絶対に手を触れないでください。電線に樹木や看板、アンテナなどが接触している場合も大変危険です。発見された場合は、東京電力(群馬カスタマーセンター 0120-99-5222)へ連絡してください。



# 安全な除雪作業のすすめ

## 除雪が必要なきががあります

- ・玄関前や駐車場に雪が積もり、家に閉じ込められそうなとき
  - ・屋根の上やカーポートなどに雪が積もり、重さでつぶれそうなとき
  - ・ガス機器の排気筒が雪に埋まってしまったとき
- ガス機器の排気筒がふさがれていると、機器が不完全燃焼を起こし、一酸化炭素中毒や機器の故障の原因となり大変危険です。



## 安全な除雪作業のために

### 屋根からの落雪に注意!

気温の暖かいときは特に、雪解け水や雪が動く音に注意しましょう。

### 体調に応じた作業を

除雪は重労働です。こまめに休憩・水分補給をしましょう。汗をかきくとも考え、体温調節ができるように重ね着をするとよいでしょう。

### 雪下ろしは複数で

家族や隣近所に声を掛けて、2人以上で行いましょう。また、携帯電話を携行しましょう。

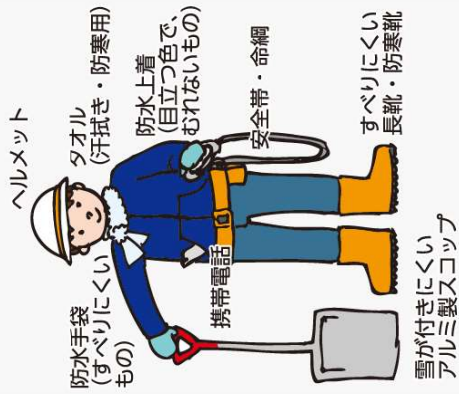
### 雪下ろしの装備

ヘルメットと命綱を着用し、厚底靴は避け、動きやすい服装で行いましょう。

### はしごはしっかりと固定

はしごは、足場を固定し、屋根に対してまっすぐ、75度程度の角度で立てかけましょう。

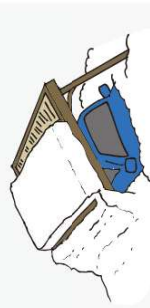
## 雪下ろしの装備



## 注意

## カーポート等の工作物の倒壊に注意

平野部の一般的なカーポートは、大雪に耐えられるほどの強度がないため、カーポートの雪おろしを行う必要があります。雪おろしが難しい場合には、倒壊による被害を防ぐため、カーポートにある車などを出す、支柱を立てるなどの対策を行います。詳しくは、各カーポートメーカーの取扱説明書等をご確認ください。



## 排気筒の先端の降雪に注意

FFストローブや湯わかし器の排気筒の先端が雪に埋まらないように、付近の雪を取り除いてください。雪に埋まったまま使用すると、不完全燃焼の原因となります。



## ガス機器の排気筒に注意

屋根等の雪下ろしの際にはガス機器の排気筒に雪や氷があたらないように十分ご注意ください。また、自然の落雪にも十分ご注意ください。





# 大雪による被害

平成 26 年 2 月 14 日から 16 日にかけて各地で記録的な大雪となり、前橋（1896 年観測開始）では最深積雪が 73cm と、最深積雪を大幅に更新する記録的な大雪となりました。

この大雪により、ビニールハウス、車庫・カーポートの倒壊に巻き込まれたり、雪に囲まれた車内での一酸化炭素中毒、除雪作業中の事故により、県内で 8 名の方が亡くなるなど、全国で死者 26 名、重軽傷者 701 名の被害となりました。

高崎市内でも住家の全壊 2 棟、負傷者 23 名の被害となりました。



写真：高崎市役所前（平成 26 年 2 月 15 日午前 5 時頃）

# 大雪被害による緊急支援事業

## ■市職員による雪かき支援

市では、高齢や病氣などで雪かきが困難な人を対象に、市職員による「雪かき支援隊」を派遣しました。家の玄関から生活道路までを人力で除雪し、外に出られなくなってしまう高齢者等を支援しました。

このほか、市内中心部の雪が多く、歩くのに危険な状態になっている場所もスコップにより雪かきを実施しました。



## ■帰宅困難者の方々を受け入れ

15 日には電車の運休に伴い高崎駅に多数の帰宅困難者が発生したとの報告を受け、市役所に臨時の避難所を設置し、120 人以上の帰宅困難者を受け入れました。

また、国道 18 号では通行止めの影響により渋滞が真夜中まで続いたため、市は運転手に非常食や水を配布するとともに、豊岡・八幡の両小学校を避難所として開設し、3 人が一夜をしのぎました。

## 雪かきボランティアの活躍

高崎市社会福祉協議会では、「高崎市雪害ボランティアセンター」を開設し、雪かきの依頼の受付や雪かきボランティア参加への呼びかけを行い、延べ 149 名の皆さんや延べ 9 組の団体企業の方々ボランティア活動により、137 件の困りごとに対応することができました。

ボランティアの無償の善意にはたくさんの感謝の声が多く寄せられ、行政の手が行き届かないところを支援できる災害ボランティアの重要性を再認識しました。

# 大雪対応への課題

今回の大雪では、除雪対応の遅れや資機材の不足など、大きな課題を浮き彫りにしました。市では、雪害についての課題を検証し、今後の地域防災計画に位置づけるなど、豪雪への備えを行います。

問題点	今後の取り組み
平野部の豪雪	平野部での豪雪も念頭に置き、これに対応できる計画や日ごろからの準備を行います。
十分でなかった情報提供	道路の除雪路線や除雪状況をホームページ等により情報提供できる仕組みを作ります。
国、県との除雪区分	国道や県道の管理者と事前の打ち合わせを行い、市道、国道、県道を一体的に除雪できるような準備を行います。
建設業者とのルールづくり	重要幹線や救急病院へつながる路線などを考慮した除雪や、市民生活に影響する積雪が予測される場合には早めに除雪を開始するなど、建設業者との除雪に関するルールを日頃から決めておきます。
資機材の備蓄	小型除雪機やスコップなどの備蓄品を強化します。

# せまい道路の除雪に 대응するため、市が準備する除雪用品を強化します！

## ■小型除雪機の配置

職員による雪かき支援を実施しましたが、準備したスコップだけでは対応できない歩道や生活道路もあったため、小型除雪機などの機械を本庁舎、各支所に配置します。



## ■貸し出し用スコップの購入

今回の大雪では地域の皆さまの多くのご協力をいただきましたが、スコップなどの雪かき用品を手でできない家庭も多くありました。市では、貸し出し用のスコップを購入し、本庁舎や各支所、市民館などに配置します。